

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101745		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム 甲府増坪		
所在地	山梨県甲府市増坪町 338		
自己評価作成日	令和元年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年11月18日(月曜日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【入居者様から愛されるホーム】を合言葉に、全職員一丸となり取り組んでいます。利用者様それぞれの生活スタイルに合わせた支援を行い、ストレスなく生活を送れ、やってみたい事・やりたい事の実現に向け取り組んでいます。また、利用者様が健康的に変わらない生活を長く送っていける事を目指し、医療との連携を密にしております。変化時に早期対応を心がけ健康増進を図っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近所に病院・数件の薬局があり、住宅と田んぼに囲まれた見晴らしの良い環境にある2階建て2ユニットの建物である。本社の理念の3つを事務所に提示し、毎朝、唱和し、職員の意識統一や今日1日が気持ち良くスタートできるように努めている。事業所の理念は「利用者様から愛されるホームになる」であり、各フロアの目標は利用者からの希望を花飾りに書き込んでもらいそこから抽出し、月1回のフロア介護で職員の意見も反映した目標をホーム長が状況に応じて作成し、ストレスのない居心地の良い家庭的な生活空間作りを作り出している。利用者・職員ともに明るく、信頼関係の中で穏やかな生活を送っている。家族・近隣との連携に努め、その人らしく暮らし続けられるように、日々の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府増坪**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（まねき猫）	ユニット名（ふくろう）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく価値						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に皆でMCS愛の家、運営理念の唱和を行っている。	毎日、朝礼時に復唱しており、スタッフ全員で理念を共有している。	事務所の中にメディカルケアサービスの理念が提示してある。事業所理念の「入居者様から愛されるホームになる」を毎月1回のフロア会議で唱和し、意識付けを行い、利用者の希望を反映した各フロアの目標をホーム長が作成し、それに沿ったケアの確認を行ないながら日々の支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、大根やとうもろこしなどホームに届けてくれるなどの交流が来ている。	地域の方がボランティアとして入居者様を訪ねてきて下さり、利用者様の趣味に対応して下さる。	自治会は賛助会員となっているが回覧板は回ってこない。ホーム長が2か月に1回程度自治会長から聞き取りを行い情報収集し地域の運動会やお祭り等に積極的に参加している。将棋ボランティアや元議員の紹介で保育園との交流が始まり地域との関わりが増え、利用者の楽しみに繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げてきた認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの実地をするなど、地域に認知症の理解を務める実践をとっている。	認知症サポーターの実地をするなど、地域に認知症の理解を進める実践を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースでホームの様子を報告し参加者から意見を聞き運営に活かしている。	2ヶ月に1度のペースでホームの様子を報告し参加者から意見を聞いて運営に活かしている。	2か月に1回火曜日の夕方に開催。会議には自治会長・地域包括支援センター・家族(5名程度)・利用者(1~2名)・管理者・フロアリーダー・近隣の事業所から1名の参加。事業所からの報告の後、お互いの介護情報の交換や参加者からの意見・要望を受けている。家族からは称賛の声が多くある。7ホームある事業所の水平の繋がりを大切にしたい合同イベントの紹介を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターと連携し、地域へ役立つ施設の取り組みを実施している。	地域包括支援センターと連携し、地域に役立つ施設の取り組みを実施している。	南包括支援センターとの連携が主体となっている。市との連携が少ないことから、運営推進会議の報告を届ける・事業報告書・介護保険情報などで足を運び、市とのつながりを持つ様に努めている。また甲府市と連携し、認知症講座開催への協力を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内や愛の家合同研修で研修を行っている。玄関の開放、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に身体拘束の研修を実施している。	ホーム内や愛の家の合同研修で研修を行っている。玄関の開放、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に身体拘束の研修を実施している。	基本的に自分がされて嫌なことはしないをしっかりと守るケアに取り組んでいる。毎月1回は職員がチェックした不適切ケア項目を話し合い、さりげない声掛け等の学びを得ている。また、2~3か月に1回、7事業所合同での身体拘束について講習会が開催され、安全に配慮した支援に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に虐待に対する研修を実施している。	メディカルケアサービスの一事業所として、定期的に虐待に対する研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、制度を利用されている方はいないが、研修の機会を作りスタッフが学ぶ機会を作っている。	現在、制度を利用している方はいないが、研修の機会を作りスタッフが学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、最低でも2時間かけ管理者が説明し、事業所への理解を得ている。入居相談の際にも不安な点、要望を確認し事業所としてできる、出来ない事を十分に理解して頂いた上で入居を検討して頂けるよう努めている。	契約締結の際、最低でも2時間かけ管理者が説明し、事業所への理解を得ている。入居相談の際にも不安な点、要望を確認し事業所としてできる、出来ない事を十分に理解して頂いた上で入居を検討して頂けるよう努めている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム甲府増埜

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (まねき猫)	ユニット名 (ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、家族アンケートを行い意見を聞いている。その中から課題点をあげ取り組んでいる。運営推進会議	毎年、家族アンケートを行い意見を聞いている。その中から課題点を挙げ取り組んでいる。運営推進会議に利用者、家族、自治会長、地域包括支援センターの職員が参加され意見を聞いている。	家族の面会時さりげなく声掛けしたり、アンケートを行う等から出た意見・要望から外出して欲しいの意見があり、ドライブ・武田神社・万力公園等にてかけた。個人的な要望も叶えられる様に家族と相談しながら進めている。また、すぐには困難なことに対しては、家族と代替え案を検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議だけでなく普段からコミュニケーションをとり、少しでも意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。	ユニット会議だけでなく、普段からコミュニケーションをとり少しでも意見を言いやすい雰囲気作りを努めている。	毎年1回管理者と面接が行われ、業務内容・1日2回の掃除・トイレ誘導などの意見が職員から上がった。意見は検討され運営に反映され、会議の時間も午前中に変更になる等働く環境が整ってきている。日常の細かいことはリーダーが直接職員から聞き取り、意欲向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を、取得後は本人の意向を重視しながら資格を活かせる職場環境作りを努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら資格を活かせる環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議・合同研修を行い参加できるように案内している。外部研修は回覧板で周知し参加を確認している。	全体会議、合同研修を行い参加できるように案内している。外部研修は回覧板で周知し参加を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	合同研修会や外部の研修等があれば案内を回覧し出席を促している。参加したいものがあれば、シフト調整を行い参加の機会を工夫している。	合同研修会や外部の研修等があれば案内を回覧し出席を促している。参加したいものがあれば、シフト調整を行い参加の機会を工夫している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながら関係作りをしている。	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながら関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながらサービスの導入をしている。	入居前から会える機会を作りアセスメントとして本人の困っている事や不安・要望などを聞きながらサービスの導入をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談等、ご家族やご本人の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行っている。	相談等、ご家族やご本人の想い、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活しているという事を基盤に、ホームの一日を互いに支え合うようにしている。	生活しているという事を基盤に、ホームの一日を互いに支え合うようにしている。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	愛の家グループホーム甲府増埜			
自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（まねき猫）	ユニット名（ふくろう）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と共に支え合う家族との絆作りとして、お花見や運動会、納涼祭などの行事に参加して頂き、一緒に楽しんでいる。面会時にも職員から声を掛け互いの思いを伝え協力関係を気付いている。	本人と共に支え合う家族との絆作りとして、お花見や運動会、納涼祭などの行事に参加して頂き、一緒に楽しんでいる。面会時にも職員から声を掛け互いの思いを伝え協力関係を気付いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで関わっていた馴染みの関係者が訪ねてくることもあり、継続して関係が作れるように支援している。	ボランティアがその場で終わらず、そこから関係ができて馴染みの関係に発展できる様に支援している。	友人・近所の方・親戚等多くの馴染みの人の来訪があり、馴染みの関係の継続支援に努めている。ドライブで家を見に行く、神社、パチンコにも行く等本人本位の希望に添って、馴染みの場所への関わりを持ったり、いちご狩りに行く等、地域との関係が途切れない様な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り会話の架け橋をしたりユニットに関係なく気の合う入居者同士関われる環境作りに努めている。	職員が間に入り会話の架け橋をしたりユニットに関係なく気の合う入居者同士関われる環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても面会に行く等その後の様子や経過を把握しようとしている。	利用が終了しても面会に行く等その後の様子や経過を把握しようとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で笑顔になる時や安心した表情を見て、想いや意向を汲み取るようにしている。本人の性格や生活歴も考慮しながら関わっている。	日々の関りの中で笑顔になる時や安心した表情を見て、想いや意向を汲み取るようにしている。本人の性格や生活歴も考慮しながら関わっている。	どんな関わりを持てば笑顔になれるか、アルバムを見たりしながら話をする。2か月に1回利用者と職員がミーティングを行ない希望・意向の把握に努めている。意思の表出ができない人は、家族から聞き取り、日常生活の中での表情や簡単な声から見極め・思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者の方から聞き取りを行っている。普段の会話やふとした時に出る言動を観察しそれまでの経緯、生活の名残を理解し支援にあたっている。	本人や家族、関係者の方から聞き取りを行っている。普段の会話やふとした時に出る言動を観察しそれまでの経緯、生活の名残を理解し支援にあたっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアやユニット会議でその人の出来る事に着目し負担の無い生活を支援している。	日々のケアやユニット会議でその人の出来る事に着目し負担の無い生活を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族にニーズを聞いて反映できるよう取り組んでいる。職員同士普段から話し合いカンファレンスなど意見交換してケアプラン作成に努めている。	本人や家族にニーズを聞いて反映できるよう取り組んでいる。職員同士普段から話し合いカンファレンスなど意見交換してケアプラン作成に努めている。	家族から管理者・リーダーが聞き取り、それを基に暫定プランを作成、担当者が主となり1か月後、家族を含め医師・看護師からの意見も取り入れ、ユニットごとに、評価・カンファレンスを行ない本プランを作成。その後3か月ごとに見直し、状況に応じ、都度その方に合ったプランの作成を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記録を記入し、スタッフ間の共有が出来それを実践に生かしている。	個人ファイルに記録を記入し、スタッフ間の共有が出来それを実践に生かしている。		

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **愛の家グループホーム甲府増坪**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の様子に応じ事前に家族へ連絡を取りホ ムでの受診対応を行っている。	入居者の様子に応じ事前に家族へ連絡を取りホ ムでの受診対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出来るだけ参加し、楽しむ機会を作 っている。	地域の行事に出来るだけ参加し、楽しむ機会を作 っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	その方の今までのかかりつけを大切に、入居後 も受診できる環境を作っている。家族や本人の希 望により往診を受けたり今までのかかりつけ医に 家族が行けない時は対応し適切な情報を伝えている。 。	その方の今までのかかりつけを大切に、入居後 も受診できる環境を作っている。家族や本人の希 望により往診を受けたり今までのかかりつけ医に 家族が行けない時は対応し適切な情報を伝えている。 。	入居前からのかかりつけ医は2~3名、入居と同時に往 診医に代わっている。かかりつけ医の受診は基本家族 が対応ではあるが職員が受診に付き添ったり、専門医 の受診も職員が付き添っている。訪問歯科は必要時受 診している。訪問看護師が定期的に来訪し利用者の健 康管理・必要な処置等を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	1週間の様子を記録に記入して経過含め相談しア ドバイスをもらいながら適切な対応に努めている。	1週間の様子を記録に記入して経過含め相談しア ドバイスをもらいながら適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関 係者との情報交換や相談に努めている。あるいは 、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている	関係者との情報交換や家族との相談を行い事業 所でも対応できる範囲で入退院の支援を行っている 。入院して認知症状が進まない事を前提に話をし ている。家族にも理解を求め意向を確認しながら対応 している。	関係者との情報交換や家族との相談を行い事業 所でも対応できる範囲で入退院の支援を行っている 。入院して認知症状が進まない事を前提に話をし ている。家族にも理解を求め意向を確認しながら対応 している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	本人の状況と家族の想いなどを踏まえ十分に話し 合い、重度化や終末期に向けた方針を決めている 。また、主治医とも連携し、事業所でできることを実 施できるように努めている。	本人の状況と家族の想いなどを踏まえ十分に話し 合い、重度化や終末期に向けた方針を決めている 。また、主治医とも連携し、事業所でできることを実 施できるように努めている。	入居時、重度化・看取りの取り組みについて書面で説明 し、同意を得ている。重度化・急変時は、往診医と家族 が話し合い、職員・看護師・家族が協力し看取る体制が 整っている。ホーム全体会議で年1回看取りの研修を行 っており、看取りが近づいた場合は管理者が夜勤に同 行し、往診医・看護師との連携・対応を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い 、実践力を身に付けている	会議時に研修を通し、マニュアルの再確認と初期 対応の確認の場を設け実践できるようにしている。	会議時に研修を通し、マニュアルの再確認と初期 対応の確認の場を設け実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、消火器の取り扱い方法など指 導を受けている。半年に1回昼夜想定避難訓練 を行っている。	消防署協力のもと、消火器の取り扱い方法など指 導を受けている。半年に1回昼夜想定避難訓練 を行っている。	今年度は2回、消防署立ち合いの元、昼夜の練習と水 消火器の使い方レクチャー・避難にかかった時間を計る 等アドバイスを受けた。反省レポートも書き、事業所独自 の6月(昼)と12月(夜)の訓練に反映させている。訓練 は地域を巻き込み、繋がりを持つ訓練となるよう努め ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重した声掛けや、その場、その時に合っ た声の大きさや言い回しに努めている。利用者は お客様という意識で自分たちは介護というサービ スの職員であると認識している。	相手を尊重した声掛けや、その場、その時に合っ た声の大きさや言い回しに努めている。利用者は お客様という意識で自分たちは介護というサービ スの職員であると認識している。	日常生活の中で、一人ひとりの人格を尊重した会話を意 識している。また、自己決定できるような声掛けを行な っている。月1回のフロア会議でトイレのドアの代わりに カーテンを閉める、入浴時バスタオルを巻き、羞恥心に 配慮した対応を行う等、新人職員には人生の先輩と言う 態度で接するよう指導している。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 愛の家グループホーム甲府増坪

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が選択できるような声掛けに努め意向に合った支援に努めている。	入居者が選択できるような声掛けに努め意向に合った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの生活リズムや習慣を大切にしている。	入居者それぞれの生活リズムや習慣を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服など一緒に選び、本人の意思に任せながら声掛けを行い支援している。訪問美容を利用し定期的な髪のカットをしている。男性入居者は近くの理容店へ出向けるよう支援している。	服など一緒に選び、本人の意思に任せながら声掛けを行い支援している。訪問美容を利用し定期的な髪のカットをしている。男性入居者は近くの理容店へ出向けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、ご飯とみそ汁は各ユニットで行う。献立によっては、一緒に食事作りを楽しむこともある。具材切りは入居者様をお願いしている。	毎食、ご飯とみそ汁は各ユニットで行う。献立によっては、一緒に食事作りを楽しむこともある。具材切りは入居者様をお願いしている。	基本献立は本社で作成し、子会社の専門スタッフが調理に携わっている。厨房は別にあり、職員はお茶つき、盛り付け、配・下膳は利用者と一緒にやっている。土曜日は買い物も含め、職員と利用者で調理を行ない、利用者の好みの物に変更することもある。またパン屋さんが週2回来るのでパンを買っておやつで食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録表に食事、水分摂取量を記入している。補助食品が必要な方は適宜提供をしている。お茶の時間にはその人に合ったものを提供している。	個人記録表に食事、水分摂取量を記入している。補助食品が必要な方は適宜提供をしている。お茶の時間にはその人に合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の促しを行い、介助が必要な人には職員が援助している。	毎食後の促しを行い、介助が必要な人には職員が援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し1人1人の排泄パターンを把握し出来るだけ自立に向け援助している。また、排泄用具の必要性をフロア会議などで話し合い、使用を減らす検討を実施。	排泄表を利用し1人1人の排泄パターンを把握し出来るだけ自立に向け援助している。また、排泄用具の必要性をフロア会議などで話し合い、使用を減らす検討を実施。	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行ないチェック表と照らし合わせた支援を行っている。排便も失敗のチェックから自立対応し、ポータブルトイレを使用することで失敗が減った例もある。リハビリパンツ・パット利用者が15名ほどいるが布パンツに移行できるような見極めを行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	センナ茶や水分摂取で自然な排便が出来るよう、水分が採れるを工夫している。	センナ茶や水分摂取で自然な排便が出来るよう、水分が採れるを工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間、曜日を決めず出来るだけ本人の希望に合わせてるように支援し、個人によっての声掛けをしている。また、できる部分の把握をし、自立し自由な入浴ができるように援助している。	時間、曜日を決めず出来るだけ本人の希望に合わせてるように支援し、個人によっての声掛けをしている。また、できる部分の把握をし、自立し自由な入浴ができるように援助している。	毎日入浴できる準備はできている。週2日以上入浴しているが本人の意向で入浴回数・入浴の方法がそれぞれ違うが自由に支援している。脱衣所に個人の棚が設置してあり、各個人の好きな入浴備品がセットしてある。入浴前に自分で着替えを準備してもらい着脱行為もできるだけ自力で行ってもらっている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	愛の家グループホーム甲府増坪		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(まねき猫)	ユニット名(ふくろう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活パターンを知り、その日の活動を踏まえながら日中休息したり、不安や混乱がある方にも安心してできる声掛けをして安眠できるように支援している。	生活パターンを知り、その日の活動を踏まえながら日中休息したり、不安や混乱がある方にも安心してできる声掛けをして安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに従い行っている。声出し確認、取り忘れ防止など誤薬を防いでいる。内服の変更は周知の様子観察を行い、主治医に情報を提供している。	服薬マニュアルに従い行っている。声出し確認、取り忘れ防止など誤薬を防いでいる。内服の変更は周知の様子観察を行い、主治医に情報を提供している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて支援を行い、その人に合った生活リズムで調理や外出支援を行っている。気分転換のドライブによく出かける。	個々の能力に応じて支援を行い、その人に合った生活リズムで調理や外出支援を行っている。気分転換のドライブによく出かける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様との外出や外泊を実施、また、本人の希望を把握し、希望に沿って外出ができるよう工夫している。	ご家族様との外出や外泊を実施、また、本人の希望を把握し、希望に沿って外出ができるよう工夫している。	夫や家族が迎えに来て、法事・結婚式・葬式等に行く利用者も居る。日常的な散歩で近隣の方と挨拶を交わしたり、庭のベンチで外気浴する等行っている。普段は行けないようなところも、本人の希望を把握して寿しを食べに行く・ドライブに行く等(万力公園・武田の森・自分の家を見に行く)、本人の意向に沿った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職責は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動バン屋で好きな物を選んで頂き支払いが出来る方の見守りを行う。小銭で支払う方、札で済ます方など能力に応じた対応に心がけている。	移動バン屋で好きな物を選んで頂き支払いが出来る方の見守りを行う。小銭で支払う方、札で済ます方など能力に応じた対応に心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあれば、事務所で電話をかける。能力に応じた支援を行っている。ハガキを渡したり郵便局に出向いたり、本人と確認を取りながら応じた対応を行っている。	訴えがあれば、事務所で電話をかける。能力に応じた支援を行っている。ハガキを渡したり郵便局に出向いたり、本人と確認を取りながら応じた対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、清潔感や季節感が感じられるよう工夫をしている。頻繁に使うものは、目に届く場所に置いたり、季節の物を飾り、季節が分かりやすくなる工夫を実施している。	明るく、清潔感や季節感が感じられるよう工夫をしている。頻繁に使うものは、目に届く場所に置いたり、季節の物を飾り、季節が分かりやすくなる工夫を実施している。	全体的に家庭と思える空間と成っている。廊下には行事や日常生活の様子の写真が貼ってある。本が多く設置してある、ソファを好きな入色に変える等、意識した飾り付けの工夫が施され、居心地の良い場となっている。出入り口の施錠はしておらず、利用者が自由に外にでれるため、過ごしやすい環境にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が居られるテーブル配置や廊下にソファを置き、ちょっと腰かけて雑談が出来る等それぞれが違う時間を共有できるようにしている	気の合った利用者が居られるテーブル配置や廊下にソファを置き、ちょっと腰かけて雑談が出来る等それぞれが違う時間を共有できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで本人が使用していた物や衣類を持ち込んでもらい自宅にいる感覚が出来るようにしている。また、特に入居時には馴染みの物があるということで、混乱や不安を少なくできるように対応している。	今まで本人が使用していた物や衣類を持ち込んでもらい自宅にいる感覚が出来るようにしている。また、特に入居時には馴染みの物があるということで、混乱や不安を少なくできるように対応している。	利用者の好みのベッドやタンス、仏壇・テーブル・テレビ等がセットされてある。洗面台に日常使う好みの物が置いてある等、自宅で住んでいたような居心地の良い居室と成っている。また、廊下に飾ってあった写真をミニアルバム式に収納して家族や面会者が自由に見られるなどの工夫が施されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアは施錠せず自由に出入りできるようにしている。トイレの表等、自分で判断し納得して動ける環境作りを行っている。	ドアは施錠せず自由に出入りできるようにしている。トイレの表等、自分で判断し納得して動ける環境作りを行っている。		